

こぶし

553・4・24

編集兼発行人

岡由美

発行所

上越市本町1-4-1

上越こぶし山の会

ハケ岳お正月山行

清水 精一

今年のハケ岳はどこも暖かく雨まで降った。今年で5年目になるハケ岳冬山合宿もようやく良さが見えてきた。たとえば入山日、下山日が違っても参加できる、初心者でも冬山に入れる、各人の技量に応じたパーティで登れる、各パーティにリーダーがいるからチーフリーダーがまとめでやすい、定着だから天候が荒れたりしたときすぐ下山できる、等である。また 今回の合宿で成果があがったと思われることは、幹部の自由行動ができたことだと思う。(いつも初心者のコースばかりで、自分の思うコースに登れなかった)それから中幹部のリーダー経験がふえた。また食料と天気図作成を全員で当番制にしたことは傑作だった。

- 山行目的 新人教育
- 山行型式 赤岳鉱泉定着
- 参加者 LL・清水精一、SL&装備・鈴木元康、気象・杉本敏宏、食糧&会計・岡由美、医療・天尾俊一、古木博明、芳沢喜久男、宮腰彰

- 桑原巖 9名
- 共同装備 40kg
- 食糧 一日一人 1.3kg、850円
- 経費 交通費 5800円、幕営代 一泊100円
- 装備費 一人100円

○気象係 1/1 桑原・岡、1/2 鈴木・宮腰
1/3 古木・天尾、1/4 清水・芳沢

○食当 1/1 杉本・宮腰、1/2 桑原・鈴木、1/3 古木・芳沢、1/4 清水・天尾

12月30日 晴れ 7名入山

茅野の駅は年の瀬なれば大きなガッパを背負う若者うあふる。

阿弥陀岳我を迎えるごとくして唐松林のかなたに立ちぬ。

美濃戸なる小松山荘の野沢菜と熱きお茶とに生き返えるごと。

大同心は今暮れんとすその黒き岩肌に残ん陽のわずかに明かし。

氷瀑を切り作りしオンザロック テントの酒宴今にけなわに。

12月31日 小雨

- 赤岳主稜 鈴木・宮腰・岡
- 全山縦走 芳沢・天尾
- 沢 殿 桑原・杉本
- 入山 清水・古木

晴れという天気予報にも拘わらず朝から小雨。主稜パーティと共々幕営地出発。行者小屋からは晴れていれば阿弥陀岳、赤岳が眼前にぞびえ立っている筈だが、かすんでいて見えない。文三郎新道のきつい登りをゆくに強い風強くなり、視界ますます悪くなる。中岳からの稜線に出たところの主稜パーティとお互いの健闘を誓い合、て別れる。トラバースぎみに登るが頂上へのトレースなく、ルートを上に取りすぎ若干下降して夏道へ戻る。この間、大分時間をロスする。権現からの稜線に出るも、風ますます強く視界全くきかず残念。南峰は通過し、北峰の頂上小屋へ飛び込む。しばらく休憩、暖をとる。悪天候のため小屋には後からパーティ来たのみ。50分程休んで出発。岩壁側からの風強く吹き飛ばされないう様に慎重に歩く。赤岳石室は通過する。横岳頂上附近で風少し柔らぐが、その北の800mのピークから硫黄石室まで再び猛烈に風強くなる。ピッケルで身体を支えながら石室にたどりつく。石室までは、ルートを示す柵があり、助かる。小屋は、停滞している人や、風のやむのを待っている人であふれている。ここで昼食をとる。石油ストーブが有難い。一時雨程休んで出発。雨が降りだす。ここからは広い道が作っており、快適。硫黄の火口もガスが見え、下りにかかる。ますます雨はひどくなり、道の雪ぬかる程。しよけしている。鉱泉あがはてが気に下り、幕営地着。

(天尾記)

コースタイム

6⁰⁰ 葛巻功発、8⁰⁰ 中岳からの稜
線、10⁰⁰ 赤岳頂上小屋、11⁰⁰ 同発
12⁰⁰ 硫黄石室着、13⁰⁰ 同発、14⁰⁰ 葛
巻功着

1月1日 元日 ガス

大岡心稜 清水、芳沢、天尾、関、
赤任、ヨルダ、リッツ

古木、杉本、桑原、鈴木、
宮藤

今年も又テントを喰う雑煮なれば

400の坂をしみじみと思おう。

出発時 昨日の雨は上がったが、ガス
がかかっている。大岡心稜への道わかりにく
く、探しあてるのに多少手向む。岩壁ま
は、なんなく登る。岩壁には2人づつの2バ
ーティが取りついてあり、しばしこれを眺め
る。細かい雪降り出す。気温が下がってきた
いるらしく寒くなる。ここから先のルートわ
からずしばらく附近を探すと、岩壁下部の右
側に立派なまき道がついてあり、安心する。
一登りすると、草の生えた広い所へ出る。更
に一段越すと、横岳からの稜線に続く、細い
稜線へ出る。視界はきかないが、風は昨日程
強くなく快適。硫黄石室で休憩、昼食をと
り、下る。

(天尾 記)

コースタイム

7⁰⁰ 葛巻功発、10⁰⁰ 岩稜下部、
11⁰⁰ 岩稜まき道中部、12⁰⁰ 硫黄石
室、13⁰⁰ 同発、14⁰⁰ 葛巻功着

1月2日 晴れ

阿弥陀岳、赤岳、地蔵、根、芳沢、天尾
石尊稜、清水、鈴木、宮藤、関
阿弥陀岳北西稜、杉本、桑原、古木

凍てつきし北西稜の岩壁へ

のびゆくゲイル命あること。

手も足も凍えること、岩稜の

ゲイルのトップアに死は立ちたし。

岩壁の若者達のコール高し

北西稜の風雪は晴る。

Bから中山乗越を越え、行者小屋わきから美
濃戸への道を下り、途中から左手に入る。久しぶ
りの太陽に、めぐる阿弥陀岳が紅く染まると美し
い。

入口をまちがえたため、やぶこぎのアルバイト
を強いられる。ようやくトレースに出て、一息い
れる。沢すじにきて登り、右手の岩峰をおり
てきているが、沢にトレースがあるのをこれをつ
める。垂壁に近いアッシュまじりのいやな所を、
木の根につかまりながら登ると岩の上に出た。

樹林が針葉樹から岳樺にかわり、やがて森林限
界となる。左手から美しいトレースが上ってきた
おり地パーティーがスイスイ登ってきた。むだな苦
労をしたようだ。

眼前の岩を右から巻き、しばらく行くと取付た。
すでに数パーティーが待機しており、形々の後から
もぞくぞくと登り、さくさく。久しぶりの晴天によろ
こんで行動開始したのだろうか、向い側に横岳の稜



三宅さんと共に

線が美しい。

腰ごしらえし、装備をつけて出発。
150mほどでオー岩峰。2パーティーが待
機している。右にトラバースする巻道
もあるが、岩稜に取りつくことにする。
見ている前で、登れず2人も滑った。
古木、杉本、桑原の順で登る。10m
程直上すると、やせたりつちになる。
確かに最初の取付がいやらしい。リッ
チを20m行って確保。先がつまんでい
てなかなか前進できない。ようやく先
がいて、1ピッチ40mリッチを登る
と才2岩峰、右に巻いて直上している

のがいたが、正規のルートに行く。

左手に約20m大きなバンドをトラバースする。この先のフェース状岩稜をアブミで苦勞してはいるパーティがいた。トラバース終了点からルートは2本にわかれている。左側のルートを登る。古木トツプで、左へちみ斜上し岩突起でビレー。バンドをトラバースとみにも右の上し、再び左上する。ここは急な凹角になっている。どうもアブミを使、て登る所のようにだが、トツプがアブミなしで登ったので、仕方なく使わずに登る。最後のハーケンに腰のフイファイを引、かけ、一気に伸び上がる。核心部はそこを終わっていた。

ラストの桑原氏に、そのまま一ピッチ先行、してもらい、そこを終了。あそい昼食をとり、頂上へ向かう。頂上では、北壁からわきあがるガスにアロッケンが二重の虹をえがいて浮び上っていた。人は多かつたが充実した登りだった。

(杉本 記)

コースタイム 15 幕営地発、9:00 取付、15 終了、14:00 頂上、15:00 幕営地着。

入山4日目にして、ようやく晴れ、岩稜が美しい。出発時には、既に硫黄岳は朝日があたり、映えている。石尊稜パーティと一諸に出発。行者小屋からは、阿弥陀岳、赤岳が眼前にそびえ、あらためてその大きさに驚く。阿弥陀、中岳のゴルフ目指し登る。ゴルフからは

遠く富士山も見える。阿弥陀岳の急な登りを終えて頂上に立つと、風があり、寒い。行者小屋やその回りのテントがきれいに見える。

槍、穂高も雪を頂いて遠くに見える。ゴルフ、中岳を通過する。行者よりの合流点附近から赤岳めですパーティで混みだす。赤岳の登りでは、上り、下りとも通らな、てしまいい、さながら夏山の賑わい。頂上では、一昨日見ることの出来なかつた知度の展望を楽しむ。赤岳の下りで稜線の西側にアロッケンがふきたり、二重の虹を見たりで、思いがけない楽しみを味わう。地蔵尾根は上部の鎖場を慎重に越して、後はハイピッチを下る。

(天尾 記)

コースタイム 10 幕営地発、8:45 中岳のゴルフ、8:45 阿弥陀岳頂上、9:00 同発、9:45 中岳頂上、10:45 赤岳頂上、11:00 同発、11:35 地蔵尾根の分岐点、12:45 幕営地着。

1月3日 晴れ 全員下山

阿弥陀は今赤々と燃え寒空を

切りさくごとく突き立ちてあり。

小松山荘にて「岩登り講習会」の時講師で来られた三宅氏に再会。一諸に下山。美濃戸にて記念撮影。

(短歌は、桑原氏の作品です)

冬山遭難救助講習会に参加して

古木 博明

2月18・19日と葉留日野山荘を行なわれた冬山遭難救助講習会に参加しました。参加者は全国から40名位、講師は日赤の沢木徳先生、農林省・林業試験場の若林先生でした。内容はナダレの性質等、ナダレに埋ま、た人の捜索方法、蘇生法、スノーボート等の搬出方法が内容であった。大変参考になりました。習、てきたことを会で講習したいと思、います。多くの資料も有り、ますので見たい方は古木までどうぞ。

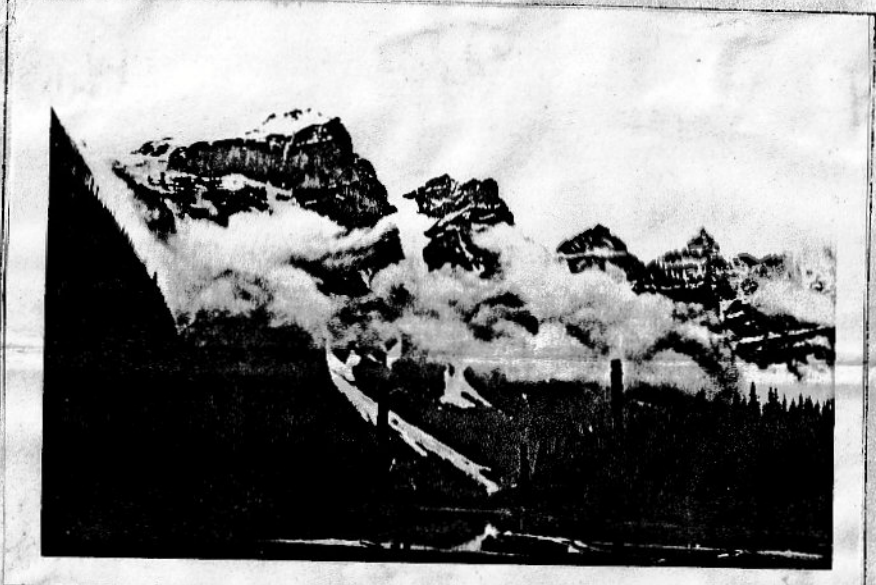
春うつら、春のいねむり

春になると、眠くなる原因にはさまざまな説がとらえられている。なかでも有力なのはビタミンB1の不足。春になると、新陳代謝が非常に活発になり、糖分の消費量が増大すると、糖分がエネルギー源となることとともなうが、B1も不足する。B1は神経の働きを活発にする働きをもっている。この不足は眠気を誘うというわけ。そこを根本的予防として、B1をじゅうぶん摂ること。食事は、腹八分目。とすることがポイント。もちろん節制ある生活することはいうまでもない。なおB1の豊富な食品は、ブタ肉、レバー、ダイズ、その他、ニンニク、ネギなどは体内をたくさんのB1をつくる。

7月1日この日から9日迄木村さんご夫妻
 として木村さんの知人である平賀さん、萩
 田さんと私の女性友人男性友人計5人で、
 コロンビアアイズフィールドの近くにキャ
 ンプ旅行にでかけました。車2台に家庭テ
 ント、寝具用の厚いマットレス、毛布、圧
 カ釜、やかん、フライパン、アイスホッ
 クス等、山でのキャンプ生活とは程遠いすご
 い荷物を積んで西に向け出発。どんな生活
 をするのか内心ドキドキしていました。
 私の経験した山行は、すべて重い荷物を背
 ったので、これをどうやって……と即考え
 た訳です。

今日も又からりと晴れ、気持の良い朝で
 す。バンフ迄は、もう私には見馴れた風景
 になっていましたが、木村さんからカナダ
 インディアンとの事、山の話と大変興味のあ
 ることを聞かされたので、あつという間に
 着いてしまいました。バンフでは30迄
 カナダ山岳会のサマーキャンプに参加する
 為、山岳会の事務所に申し込をし、又旧道沿
 いに目的地に向った。ハイウェイの両側に
 そびえる山々は飽きる事なく、目も心も楽
 ませてくれます。森と湖の国カナダのシ
 キアッチフレースピツタリであり、ここロ
 ッキーの山の中では「アラスカ山なり、もっ
 とピツタリです。ハイウェイ沿いにある湖
 は、回りの山々から流れ出る水が、満々と
 たたえられ、エメラルド色、濃紺に乳を混

せに様な色と、それぞれ違った色を持ち
 又、屏風の様にそびえる沢山の山々も、一
 つ一つ姿が面白い、本当に美しいなごめです。
 私達は、アイズフィールドに近いキャンプ
 場が満員の為、手前のキャンプ場に落ち
 着きました。
 7月2日 川のせせらぎと小鳥のさえず
 りの中、目をさます。お天気は余り、良く
 なごさう。早めにテントを撤収し昨日の空
 いているのを期待し、ドライブ方々出掛け
 ました。案の定、良い場所が見つかり、安
 心して車一言置いてジャスパパーへ向った。



カナディアンロッキー 4-
 女一人(Mariko Yagi)50日の山旅

ジャスパパーの町では大きな特製アイスクリーム
 をなめながら、ひなたぼっこをし、又マーケッ
 トで食料の調達をし、帰り道に以前木村さんが
 登られた事のあるMt.エディンバラを見に寄
 った。この山はジャスパパーの町からも見え、車
 ですと山奥迄入れ、岩壁と氷河を近くに見
 る事が出来る様、観光用に歩道迄付いていました。
 私達は、山の展望台である通路、雲の平(木村
 さん命名)迄登りました。そこには一面雪が積って
 いて溶け始めたところにはうぶ毛の付いた白いア
 ネモネ、又紫の小なまきまきように似た花が咲い
 ていたり、植物の生命力の強さにも驚きました。
 時々雪がちらついていましたが、すごい岩壁
 の大きなエディンバラを見る事が出来、感激
 して帰りました。

7月3日 本日は Mt.アサバスカの展望台で
 あるMt.ウィルクックス(2884m)へ明日の偵察方
 々おにぎりを持って出掛けました。コロンビア
 アイズフィールドのシャーレーより5分程行っ
 た所に車を置き、川沿いのトレイルを歩き、浅瀬
 の川を渡り、山に向いました。木村さんが先頭
 に立ち、獲物道を奇妙な声を出し、熊私いをし
 なから登った。こちらの山はほとんどハイキン
 グ道以外道が付いておらず自分で見きわめて登
 ります。危険でもありますが好きな所を探して
 歩け、又楽しみです。樹林帯を抜け、モレーン
 に出ると、何物にも見えざられず、アサバスカ
 等々々と白い山並みが見えた。

それらの山々をながめながら沢山の小さな花が咲く草原の上に寝ころんだり、歩いたりしながら頂上に着いた。頂上には珍客(山羊)が居ました。私達を恐れてなのか素速く絶壁を駆け下りて行っ、こしまいました。双眼鏡を出しMtアサバスカの登山ルートを説明してもらおう。私も全然気にはいらず、人ごとの様にうなづいていました。木村さんの後を行けば安心と思おう反面、余り良く知らない人と一語に！と言おう事に自分に納得できず、私と木村さんと平賀さんと行くことになっていたのですが、結局木村さんと平賀さんの男性2人のパーティになりました。ウイルコックスからの帰り皆なすごい格好でシャトレーに入り、コーヒを飲みながら窓の外のアサバスカに見入った。夜は翌日の2人の為に心をこめていなり寿司、等を作り、私はわびしく眠った。

7月4日 2人の分までゆっくり眠り、ろ人ぶそろろと起き出し、ランドイツチを持って時間つぶしに車を出掛けた。シャスパイ近道する予定が、やさしいマダム1人と2人2人は、登っている2人が気になり途中近見に行った。頂上にパーティ、稜線に2パーティ、頂上直下の氷壁にと4パーティ見えた。じっくり見ていると、いよいよ心が踊る。私も登りたい。私にも登れる！残念だけれども遅い！と少々後悔した。天気もまあまあなので心配せず私達も乗もう！と又シャスパイへドライブした。少し早めに帰り、夕食

の仕度にとりかかった。キャンプ場内にはキヤンピングカーと乗用車としてテントの張れる広さの所がいくつもあり、カマド、テーブル、イスが付いています。薪は自分で割るのですが、使い放題で、トイレ、水道もいくつも備えてあり、又大きな小屋(無人)もあります。小屋の中には大きな机と椅子が備えられ大きなストーブ兼コンロも備えてあります。夕方になると管理人が、トイレの清掃がてら？ キャンプ場の使用料(一コーナ1500円)を集金して回ります。カナダへ来て大変感心したのですが、ここへ行ってもトイレがあり、紙まき備えられ、一日一回清掃に回ります。又、所々に置いてある大きなゴミ箱も同じことなのです。この点ほとても感心しました。

さて今夜の夕食は、ごはん(圧力釜使用)みそ汁、煮つけ(人参、コンニャク、鶏肉、じゃがいも、かんぴょう)で、コンニャクは粉をといいて作るのだと日かかりです。この様にこのキャンプの食事はほとんど純日本風でした。2人の男性が腹を減らし？無事成功して帰ったのを皆祝杯をあげ遅く近騒ぎました。

7月5日 雨もりの騒ぎで目をこまます。一晩中雨だ、正とか、幸な事に私は被害なし。始めての雨でした。しかし朝のうちに上がり、昨日アサバスカの頂上を見つけたと言う湖へ魚つりに行く事になりました。その場所はハイウェイから15分程の所にあり、

アサバスカ初登はんルートにある所です。とても静かで美しい湖です。男性は魚つり、私達は読書、ひる寝、散策と楽しんで一日でした。夜は期待通り、岩魚の塩焼ことニシマス、の塩焼、そして平賀さんの手打うどんの煮込みと感謝しつつおいしい夕食となりました。

7月6日 一日中雨、しかし我々の友人のフアイトマンアンドウーマンはナベとコンロを持ってワンセットパスへ傘をさしながらハイキング、黄色のかわりの花が一亩咲く所に木陰を見つけた、即寒さにふるえながら煮込みうどんをすすり、楽しむ余裕などなく下山。

7月7日 晴れ、ミセス木村が仕事の都合で一人帰られるので、お別れ会に又シャスパイへ出掛けた。(本当の理由は、シャワーを浴びる事、洗たくをすることだったのです) シャスパイからは早めに帰り、ミセスを見送った。その後男性軍は魚つりに、私達は、明日私の為に再度Mtアサバスカにアタックして下さるとの事で、その準備をした。

1つづー

今回は、いよいよ、Mtアサバスカに挑戦です。乞ご期待を！

写真には、ロッキーと美女が写っているのですが、良くゼロックスで書きずしに申し訳ございませんでした。



新婚せん

いらっしやい

今回は、昨年6月17日に結婚された松岡健一さんと、11月2日に結婚された古川光枝さん。お二人は、インタビューしてまいりました。まずは奥様、ダンナ様を紹介していただきます。う。のうけていた。だいたも結構です。

松岡 名前は、愛子。良く気の付く思いやりのある人ですね。これは本当です。

古川 年は同年の30才です。

年がはなれていくせいか、22才と28才とよりになります。わりに積極的。いろいろとやっております。努力家をコツコツとやるほうです。名前は、誠一。ズ。一番悪い出深いデートは？

松岡 代々木西口にある喫茶店へ行った時。

日頃の自分に似合わず緊張した時間です。

古川 結婚式の2日か3日ほど前にデートした時かな。

今迄で、奥様のお料理の中で一番おいしかったのは？

松岡 手造りの子。子の新風物といえませう。一度食べに来て下さい。それから、アサリの汐焼です。

古川さんのつくってあげたお料理の中で一番

おいしいと言われたのは？

古川 これが一番おいしいとかさういうことはなく、彼の好きなものをつくってあげることもよろこびます。

はじめてのお正月はいかがでした？

松岡 雪の少ないうちに実日へ帰り、3日迄留守でした。まあ静かなお正月でした。

古川 いつものお正とちがって、年始とかであわただしいお正月でした。

赤ちゃんは何人位ほしいですか？

松岡 二人ぐらいの予定ですが、高令出産となるので心配しております。

古川 うちも二人ぐらいですね。

山に対する理解度は？

松岡 私以上に関心が有ります。9月に火打の頂に登らせてやりました。

古川 私が結婚するにしても山に行けなくてイヤダと言ったものですから、山へ行くのは、月に一度ぐらい行ってもいいと言ってくれます。でも夏や冬の合宿にはまだ行っちゃだめということですか？

松岡 カリです。例会なども、月曜日になると行かなくてもいいのかと時々聞くことがあります。

7月の清掃登山、大衆山行には、是非とも二人ふそろいで参加して下さい。最後に総合して何点ぐらいの奥様、ダンナ様でしょうか？

松岡 72点。少々辛いかも。

古川 減点すると、早く帰ってこないの

10点、合宿に参加させてくれないの

5点。だから85点です。

どうもありがとうございます。

お聞きしたところ、松岡さんのところも、古川さんの所も、ダンナ様がB型、奥様がA型だそうですが、血液型愛着学の見地から言いますと、B-A型のカップルは、日本一仲がいいのか、日本一仲が悪いのかのどちらかだそうですね。夫は、亭主関白性の薄い、恐妻型だと自認する傾向、A型の奥さんはそれに対し、とんちむないと怒っている。夫婦の間の会話量は多い。これは睦言も多ければ、口論も多いということ、とにかく賑やかな夫婦となる。愛について一番語り合える夫婦である。本物の愛情を生み出す可能性は一番高い。ある意味でたがいに刺激が多いことが、最高の人生ともいえる。このペアでは、会話が消えた時がピン子といえよう。だそうですが、いかがですか？

B型夫は、A型妻が世間と自分とのつながりを失ってしまっていること、生活を安定させる鍵の役を果たしてあげていこうと評価すべきで、家庭内では、今の三倍ぐらい奥さんのペースに合わせることを目指さず。未長くお幸せであることを祈ります。

赤ちゃん誕生の吉報をお待ちしています。

ありがとうございます。

